

立命館大学文学部卒業論文題目

哲学科 哲学専攻

アリストテレスの学問論について

秋山麻里子

盈虚道話

足立 浩平

フェミニズムについて

飯尾 奈々

ソフィスト・ゴルギアス

猪野美留樹

ヘテロトピア

宇野 浩志

フッサール現象学における存在論の

原理的可能性をめぐる 江口 建

「意識内存在論」の提言

安楽死

大貫 真弓

患者の意思と家族の気持ち

エンペドクレスについて 斉藤 史佳

認識論の世界構築（言語と身体との

観点から）とその世界からの超越に

ついて

坂本 年紀

家族の死

佐藤 美鈴

安楽死を通し患者の自己決定と家族

の役割を考える

初期ギリシアの思想

杉田 智美

孤独の発明

高橋 慎一

フーコ、自己への配慮をめぐる

水の哲学者 タレス

竹中 悠介

生涯と学説

ハイデガー『存在と時間』における

不安について

豊田 秀秋

何の平等を求めるのか

西田 純子

ジョン・ロールズからアマルティ

ア・センへ 「芸術」における 身体性 について

幡山 章浩

フロイトの無意識論

元素の哲学 アナクシマン드로ス

藤田 貴弘

ルソーにおける子どもの道德教育

望月 理代

ベルクソンの時間論

薬師寺晃雄

哲学者 ヘラクレイトス

矢内 大丘

退却戦、仮象、あるいは「イタリア

の存在」

畑 武尊

アドルノの美学

ハイデガー『存在と時間』における

時間性について

渡部 新

道徳的行為は報われるのか 加藤 梨恵

女性としての存在を哲学的に研究する

(メルロ＝ポンティをてがかりに)

富永 裕子

芸術作品「と」の「非日常性

デガー『芸術作品の起源』の一解釈

村澤 恵美

ニーチェ哲学のニヒリズムをめぐる

考察 米澤 妙子

複数性 リアリティに対するハンナ・アレン

トの視座

スピノザ「エチカ」について

大澤賢一郎

ベルクソンの心身二元論 栗本 寛之

純粹知覚における脳と意識の関係に

ついて

について

望月 理代

望月 理代

望月 理代

モノドロジーにおける他者問題に

ついて

杉原 淳一

生きることを考えること

山崎 祐

ハイデガー『存在と時間』における

現存在の存在了解から

自己と他者の相互における他者性に

ついて

松尾 健太

レヴィナスにおける主体の誕生と他者

との関わり

心身問題 心はどこにあるのか

北川 慎士

ハイデガーにおける現存在の死の問題

と不安の問題

増岡 昌大

スピノザ『エチカ』における感情に

ついて

加納 良子

アリストテレスの『ニコマコス倫理学』

観照的生活と実践的生活の関係を中

心に

鷲見 織恵

## 哲学科 心理学専攻

脳性麻痺と診断された、音声言語表出

困難な個人における要求言語行動の

獲得と異なる確立操作間における転

移に関する検討

穴見 明子

チヨコレートの苦みに及ぼす色の濃淡

の影響 出雲 愛

課題遂行時における対人距離の影響

稲本 浩美

共感と自尊心が援助行動及び被援助

者への心理的距離に及ぼす効果

植川 裕也

日本語における高低アクセント情報

によるプライミング効果の検証

上住 祥隆

子どもの頃の認知的親子関係像と情動

制御とのかかわりについて

江見 直子

共感と自尊心が援助及び被援助者への

心理的距離に及ぼす効果

大久保みどり

視覚探索におけるフレーム効果の検討

大中悠起子

自我関与状況における選択行動と、

それが内発的動機づけに及ぼす効果

小笹哲津雄

顔面表情の知覚における個人差

性差及び性度との関係

小野田拓平

幼児期におけるルール遵守行動と

違反判断 小山 清香

筆記を通しての内面直視がもたらす

心理的变化 狩野 美保

幼児期における描画発達の研究

北 香絵

タスク・スイッチングにおける音韻

ループの役割 栗山 玲子

一種類の構音抑制条件の比較

先行経験が等価クラス形成に及ぼす

影響および一般人における刺激等

価値の成立 清水奈緒美

写真行為におけるフレーミングの

経験的变化について 下濱 愛

音楽鑑賞における気分の操作が対人

判断に及ぼす効果 鈴木 剛

随伴的・非随伴的環境が個体の行動

に及ぼす効果 高瀬 堅吉

学習性無力感に関するCole & Coyne

(1977)の研究の再考

幼児の対人葛藤場面における非のある

側の逃れ方 高田 舞

食物の嗜好における単純提示効果

について

田中 理恵

公的私的状况における強制承諾法

による態度変容

徳田 海二

自己の諸特性における異なる自己評価

基準と自尊心

富田 理子

継時呈示される二音間の距離知覚

中嶋 智子

文作成時の聴取音楽による気分の影響

中村 恵理

選択対象のネガティブフィードバック

が与えられる状況における不協和低

減行動

西川 陽介

幼児における新奇語彙学習

対象物に関する既知概念の影響

錦織あかね

被験者 実験者、ビデオカメラの距離

が課題作業に与える影響について

西本恵美子

物語のもつカメラアングルとその

記憶について

野浪 恵梨

展望的記憶における年令差の研究

秦 有二

大学生におけるゼロリスク達成の価値

に及ぼすリスク削減プロセスとフレ

1 ミングの効果

畑本 勇

割合問題に対する子どもの問題解決と

方略の分析

羽生 五月

2・3 歳児の捕球あそび動作における

運動制御の発達過程

林 春花

自我関与条件における選択行動とそれ

が内発的動機づけに及ぼす影響

馬場 直樹

否定的表現を用いた言語強化における

行動調整機能への影響

対話場面における指示代名詞の現れ方

指示対象を含む三者の空間的位置関係

への依存性

仲間あそびが継続しない幼児に対する

遊び場面設定の効果

3 歳児における繰り返しのある絵本の

理解について

行動情報に基づく印象形式過程の研究

二次元画像上の人物に対する距離の

知覚

二つの時呈をもつ音列の知覚的体制化

大学生の無気力

宮嶋 訓生

孤独感との関連

主題統覚検査法的分析における異背景

色間の写真の印象の変化について

性格の類似性による対人魅力判断と

それに及ぼす服装情報の効果

望月 園子

情動表出が精神的健康に及ぼす効果

について

ろう重複障害児における動詞・目的語

の二語文の獲得と般化の検討

母親の養育態度および職業形態が大学

生男女の性役割観に与える影響

大学生における知覚されたサポートが

コーピングに及ぼす影響

ビデオ鑑賞後におけるロールシャッハ

・テストの得点の変化

選択対象のネガティブフィードバック

が与えられる状況における、不協和

低減行動

ソーシャルサポートが更年期障害に

及ぼす影響

入山ひとみ

榎谷 多恵

自閉症児に対するコミュニケーション

技能の拡大 北澤奈緒美

電話技能の獲得と報告言語行動の指導を通じて

イモリにおける摂食行動と探索行動

についての小実験 柴崎 全弘

成人期における「生殖性 (Generativity)」の発達

西本 麻衣

リーダーの特権操作に対するリーダー

シップとチームの業績への影響

金井小夜香

「いじめ」状況下における教師の「コミ

ュニケーション」について 荊木まき子

発話とジェスチャーの関係に聞き手が

及ぼす効果 井本 理絵

青年の友人関係と充実感について

入川 常美

在宅高齢者の主介護者の介護負担と

コーピングについて 上田 裕子

ダウン症児における応答言語行動の

獲得と般化についての検討

栗林 充恵

中高年におけるパソコン導入の援助

齊藤 和美

痴呆患者における前頭葉機能障害仮説

の検討 毛利 貴子

実行機能に関する実験研究 仙頭 尚武

一重課題が注意の持続に及ぼす影響

高齢者の予定の記憶における時間的

特性 田原 町子

自己概念への気分の影響 前田やす子

自己の二重性に注目して

保育園児の自由遊び時間のおもちゃを

巡る交渉に関する行動の形成に

ついて 今川 悦子

肥満に対するイメージ 橋本 千明

愛着行動から見たエディプス・コン

プレックス 落合 盛行

記事の見出しが読者の判断に及ぼす

影響 真鍋 綾乃

インターネットにおける怪談の恐怖と

娯楽性について CHEAH YUEN HENG

恐怖感と娯楽性を中心に

条件性弁別による新しい機能的クラス

の成立 黒田 恵子

## 文学科 日本文学専攻

芥川龍之介『河童』 赤井 文香

七夕歌とその周辺 浅野 真弓

尾崎 翠『第七官界彷徨』論 足立 千鶴

向田文学に見る家庭像と現代社会に

おける家庭像 阿南 希美

『父の詫び状』より

若山牧水『別離』 粟倉 洋

梶井基次郎論 「泥濘」を中心に

東海道中膝栗毛と落語の比較研究 生田 朋子

金子みすゞ論 井口 守

狭衣下紐について 池口真梨子

江戸艶本に現われた異形 以西 太郎

『源氏物語』薫論 石上 阿希

香りについて 石島 真弓

芥川龍之介『神々の微笑』 石田 知也

寺山修司の映画「書を捨てよ 町へ

出よう」 石丸あゆ子

その家族論について

御伽草子「鉢かづき」論 磯部 梓  
 古典文学における なでしこの花 岩井 衣子

明治文学における女性の髪型論

岩永真由美

芥川龍之介の切支丹物「奉教人の死」

試論

上田 真幸

芥川龍之介「蜘蛛の糸」論

大川 麻貴

石川啄木「二筋の血」論

大津 里絵

正岡子規「墨汁一滴」論

大槻 千紘

紙面の笑い・持続のスリル

尾上松之助「映画的技法から」

大矢 敦子

『栄華物語』における紫式部の影響

について

岡部 達昌

笑いの研究

小田 晶子

吉本新喜劇と松竹新喜劇を題材に

伊勢物語における在原業平について

その史実と虚構

垣内 悦余

山陰地方の文末詞研究

影谷かおり

萩原朔太郎論

片岡志保美

山部赤人の吉野讃歌考

金垣 恵介

夏目漱石『こころ』論

鎌田沙由理

大正時代と谷崎文学

亀田 俊輔

平安朝文学における天象 川東 暁子  
 物の怪表現とその比較 河村 厳希  
 『岩造の話』にみられる北杜夫の自

然観、人間観

管 宏史

石川啄木論

北村由妃子

志賀直哉「剃刀」「濁った頭」「范の

犯罪」論

熊谷真由美

谷崎の「児童」文学

桑本ともこ

椎名麟三「自由の彼方で」論

芥川龍之介論

小寺 由香

『鼻』にみる二つの感情

中原中也について

小林 威次

ロックンロールと響きあう心

小林 美保

宮沢賢治論

小林 理沙

『銀河鉄道の夜』を中心に

高村光太郎論

古味佐枝子

万葉歌と古代氏族

小山 由貴

その氏族観をめぐって

『武蔵野』から見る認識の問題

齋藤 亮二

齋藤 優子

川端康成「古都」論

齋藤 亮二

『甲陽軍艦』における徳川家康像

齋藤 富洋

芥川龍之介「歯車」の研究 櫻木 裕人  
 食文化 佐々木泰子  
 樋口一葉「こりえ」論

お力の狂気

佐竹麻里子

三遊亭円朝作品と現代落語

佐藤 慎

坂口安吾「白痴」論

佐藤 真

源氏物語といるはうた

澤田 恵

樋口一葉の文学

座間 麻衣

四代目市川小團次のケレン芸

『源氏物語』の服装表現 下香川真由  
 色に注目して 下川亜希子

アルコール依存を通し、人間の依存

という行為について 菅原 英久

石川啄木「書簡」について 仙島 千穂

万葉集二〇・二二 番歌 蒲生野贈答

歌 作品論 高塚 淑恵

三島由紀夫の肉体と文体 高野利里矢

大江の初期作品における性 高橋 敏哉

『性的人間』を中心に

枕草子における色 田中 紫穂

『とりかへばや物語』についての

研究 登場人物の役割をめぐって

辻 美里

『笑点』の研究

富塚亜希子

季節のない街の映像

友田 義行

黒澤明「とですかでん」について

森鷗外「半日」論

藤田 祐子

四季歌からみる『古今和歌集』の心の

武田泰鴻「ひかり」け」論

藤谷 和幸

風景

中井 奈美

幸田文論

藤原 志帆

『源氏物語』浮舟論

西潟 祐子

その周辺からの影響を中心に

船木 紗代

自殺と出家

西下 沙織

『枕草子』「上に候ふ御猫は」の段に

横田 佳代

『沈黙』から『深い河』

遠藤周作の信仰の世界の深化と変容

「赤い蠟燭と人魚」論

松浦 真代

樋口「葉」たけくらへ」にみる女の

世界

『竹取物語』

松浦 真代

『セウンティーン』「政治少年死す」

西嶋万智子

『異世界が現世に与えたもの』

今も鳴き続ける「ねじまき鳥」

『ねじまき鳥クローニクル』論

吉本 一毅

個の棄却

野沢 牧子

歌舞伎演出史研究

松葉 涼子

国語科教科書の歴史的考察

裕 夕記

平安朝文学と結婚制度

松本 幸子

『紫式部日記』にみる女性観

服部友里子

三島由紀夫『金閣寺』論「生」とは

松本 拓美

『万葉集』の国民歌集化をめぐる

問題について

泉鏡花の「夜叉ヶ池」について

松本 千明

『平家物語』における「藤戸合戦」

林田 興栄

『河海抄』の研究

水野 歩美

『河童』怪異趣味を育んだ環境

『河童』

『お笑い』の可能性

宮島 周二

『河童』怪異趣味を育んだ環境

『河童』

『お笑い』の可能性

宮島 周二

『河童』怪異趣味を育んだ環境

『河童』

『お笑い』の可能性

宮島 周二

『河童』怪異趣味を育んだ環境

『河童』

『お笑い』の可能性

宮島 周二

『河童』怪異趣味を育んだ環境

『河童』

『お笑い』の可能性

宮島 周二

『河童』怪異趣味を育んだ環境

『河童』

『お笑い』の可能性

宮島 周二

『河童』怪異趣味を育んだ環境

『河童』

『お笑い』の可能性

宮島 周二

『河童』怪異趣味を育んだ環境

『河童』

『お笑い』の可能性

宮島 周二

『河童』怪異趣味を育んだ環境

『河童』

『お笑い』の可能性

宮島 周二

『河童』怪異趣味を育んだ環境

『河童』

『お笑い』の可能性

宮島 周二

『河童』怪異趣味を育んだ環境

『河童』

『お笑い』の可能性

宮島 周二

『六条御息所が物の怪になる理由』

八木 宜子

森鷗外「沈黙の塔」論

安井 智美

『横笛草紙』論

山田いつか

夏目漱石「夢十夜」論

山田 幸絵

夢を描いた方法 時間を通して

山本 美和

森鷗外『鶏』論

山本 美和

障害関連用語から受けるイメージに

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

『沈黙』から『深い河』

吉岡 恭子

中原中也『山羊の歌』論 長谷川訓代  
『御伽草子・和泉式部』の周辺について

空蟬の役割について 藤田久美子  
創作技法における存在意義

坂口守吾『日本文化私観』 百瀬千恵子  
日本と韓国 of 「呼称」の比較

与謝野晶子の児童文学 関 庚珠  
山上憶良作品論 植田 良枝

散文への傾斜をめぐって 佐本 尚子  
『四千の日と夜』論 菅野 瑞己

「共同」の意識に見られる戦後  
「夏目漱石」論「こころ」についての

一考察 三木 孝子  
古事記「ヤマトタケル」について

三巻本『宝物集』研究 元町 真子  
維摩の十喻と和歌 山原やよい

江戸後期における潮来節の文芸的位置  
「信田小太郎」と貴種流離譚

宮本百合子論 『伸子』にみる夫婦像 渡辺 恵子  
の考察 遠藤 勝嘉

東電OLの心の闇

『河海抄』の研究 岩見 裕介  
宇治十帖における女性観 大矢富紀子  
窪田 洋子

浮舟の否定は何を意味するか 志村 朋美  
河野多恵子論

日常の会話における慣用句の使用と  
それに代わる言葉 棚井 伴哉

森鷗外「阿部一族」論 宗安 力  
日本文学と映画 徳田 周吾

芥川龍之介「藪の中」と黒沢明『羅生門』

## 文学科 中国文学専攻

『三国志演義』における「義」

中国におけるあか色の呪術性・意味 秋里圭一郎  
について、日本との比較

舜説話に関する一考察 池田真知子  
『莊子』肯定の文学 稲本 篤子

八仙の民間伝承 岩田みのり  
水滸伝の女性たち 岩本 俊作

王安憶研究 江藤 友美  
『雨・沙沙沙』を中心とする考察、 大上 香織

『水滸伝』における宋江形象とその

存在意義 岡 寛子  
水滸伝に見る徳 岡村 圭造

戴震の「自然」「必然」論について 尾崎順一郎  
中国映画『漂亮媽媽』と中国聾啞者

老舍『張さんの哲学』についての考察 金子 佳代  
神崎美智子

薬膳及び医食同源の思想について 小林 陽子  
「王法」と「私的情義」について

古代中国における人々の意識 齋藤 雄成  
孟子の目指した理想像 菅野知香子

司馬遷『史記』による項羽の敗北に  
ついて 鈴木 涼子

『水滸伝』における宋江について 瀬戸 麻幸  
麒麟について考える 谷田 有似

『麒麟』はいたのか、 王安石の「万言書」の理念 佃 隆志  
六朝以前の鏡の用例について

胡適と文学 辻 典孝  
辻岡 智美

『西遊記』に於ける桃の効き目

寺田 千華

戦後の台湾社会と郷土文学作家・黄

春明 富樫 美緒

『三国志演義』と正史との比較

富田 道成

小説『三国志演義』における劉禪の

必要性と役割 仲 哲生

屈原の実在について

中濱 高志

『西遊記』における道教思想 中須 有紀

三蔵法師を食べると不老長生になれるわけ

唐代妓女・女道士による詩の文学的

評価 永井沙緒里

嵇康の養生論からみる自然認識 西垣 映

『子不語』における関帝像と薊枚の

関帝観について 西野 敏夫

老子の人物像

野宮 啓史

鄭和の人物像 野村実千代

曹操は本当に乱世の姦雄だったのか

郭子章『蟻衣生馬記』について 原田 大介

『三国志演義』に見る諸葛亮孔明に 平山 真弓

ついで〜最高指導者孔明〜 藤井 靖房

嵇康の音楽観 藤岡 歩美

中国文学におけるカニバリズム

『三国志』の軍師 真の智者とは 細井 貴典

民俗学研究と辺疆工作にみる顧頡剛の

歴史観 前田 恵

祖先崇拜の源泉 松木 朱子

〜祖先は偉大か〜 松下 倫子

則天武后の業績とその評価 味谷 恵子

中国清時代の年末年始の行事における

食べ物 村上奈緒子

『聊齋志異』の幽霊について 森田 光司

『金瓶梅』にみる中国庶民の生活と

宗教 八日市屋裕一

『三国志演義』の戦闘内における

火攻めについて 吉川 真衣

王朔 支持を得た原因を探る 松浦 園

孟子の仁義について 三町 晴美

金庸 上村 陽子

現代中国の女性について考える

女性問題・女性学、社会的地位、文

学 梅谷 洋子

清末民初の翻訳文学 林沢小説を愛読した人々

李義山雜纂と枕草子 未浪真紀子

台湾における民間信仰としての道教 安里 洋輔

『巫』の系譜と台湾での発展、

楊絳『洗澡』を読む 長谷川夏子

新疆時代の王蒙から見る少数民族観

についての考察 安田 聖

## 文学科 英米文学専攻

Charles Dickens, Great Expectations

の研究 青山 真枝

主人公Ripの報いと償いについて

David Guterson's Snow Falling on

Cedars: The Setting and Characters

赤井 千恵

The Wings of the Dove にあたるMilly

とKateの「生」の探求 赤澤由美子

Lady Windermere's Fan 味志 和彦



作題と現れた Wide のユル・ヤク

ーシ

Alice Walker の The Color Purple 研究

Callie, Shug, Mr. Green の描写について

菅谷 寛子

Jean Rhys, Wide Sargasso Sea について

クレオール文化が語られる "the other side" の存在

安藤 広美

Tough 構文とその他の類似形態動詞

不定詞補文について 家崎 裕雅

The Old Man and the Sea について

船長のロマンについて 池永 香織

Toni Morrison, The Bluest Eye 研究

ハンパノにないた少女の面影 Pecola をめぐって

伊佐 夏美

ストロースに特徴付けられる英語発音の研究

石飛 一穂

The Bluest Eye について

石橋 佳典

戦争を背景に生れた小説について

精神的成長の過程 石丸 恭子

〜キヤサランの愛と死について〜

与えられた影響〜

A Study of L. M. Montgomery's Anne of Green Gables

市川 信子

A Farewell to Arms 研究

一柳 智子

Frederic の描写について

陽子

Tennessee Williams 研究

一風 陽子

The Glass Menagerie について

伊藤 瑞光子

Tennessee の空間描写

A Christmas Carol 研究

福岡 瑞光子

Sarge の描写について

The Scarlet Letter 研究

福岡 瑞光子

〜 異文化をめぐって〜

Truman Capote's Breakfast at Tiffany's

上田 恭子

〜 Through the Character of Holy Golightly 〜

T. S. Eliot の The Waste Land 研究

請川 容子

現代文壇の崩壊と再建の試み

A Woman's Rebirth in Margaret Atwood's Surfacing

鹿田 裕美

A Study of Arthur Ransome's Swallows and Amazons

田中 良子

C. S. Lewis and the Land of Narnia: A Study of The Lion, the Witch and the Wardrobe

田中 良子

Macbeth について

大檀 朋子

Ernest Hemingway, The Old Man and the Sea 研究

大崎 伸人

カントナートの血祭 生き物(人間動物)としての描写

『鷹の刺』と『群衆の夜』について

大田 智寿

Wayson Choy's The Jade Peony: Things to Bequeath

大竹 逸朗

Toni Morrison, Jazz について

大槻 眞佐子

歴史を回復する歴史小説の限界

Gender Roles in Margaret Atwood's the Edible Woman

回崎 香織

J. D. Salinger, The Catcher in the Rye Holden のならた「大人」

回崎 充浩

C. S. Lewis and the Land of Narnia: A Study of The Lion, the Witch and the Wardrobe

田中 良子

照らされた現れについて

田英語比較

複合言語の口・英語における比較

小川 真司

- こころ 奥田 征樹  
 The Aspern papers 研究 小澤 由希  
 物語に込められた我々のメッセージ  
 シ  
 バイリンガルの乳幼児期における言語  
 獲得について 尾田 崇  
 Jane Austen's Morality in Sense and  
 Sensibility 小野田 絵麻  
 A Study of Henry James' The Portrait  
 of a Lady: The Growth of Isabel  
 Archer 小幡 亜弥  
 Silas Marner の研究 加賀美 陽子  
 人間の再生と神の持つ力  
 William Carlos Williams の詩研究  
 「井筒」を論じての経緯 桂川 早映子  
 Patricia MacLachlan's Sarah, Plain  
 and Tall and Skylark: A Family's Life  
 on the Prairie 門田 麻里  
 Jean Rhys の Wide Sargasso Sea 研究  
 フォンティック・オブ・ソート・イン・ソート・イン  
 ヲ研究について 加門 美枝  
 The Portrait of a Lady について  
 Isabel を Rome へ戻した理由
- 河瀬 康博  
 "The Fall of the House of Usher" 研究  
 Roderick の精神を喪った鏡と心の Usher 家の邸宅 川田 悠紀子  
 黒人英語の tense と aspect の研究  
 "MORELLA" 研究 喜多野 裕介  
 輪廻と信じた Poe 北野 瑠美  
 Toni Morrison, Song of Solomon 研究  
 飛翔の解釈を中心に 北村 訓子  
 A Room with a View 研究 吉備 愛  
 Lucy の「脱却」からの解放  
 年齢が第 11 言語獲得に与える影響に  
 について 金 賢一  
 不定冠詞を用いた慣用表現について  
 Alice のソート・ソート・ソート・ソート  
 Alice's Adventures in Wonderland における  
 Alice のソート・ソート・ソート・ソート・ソートの総論  
 主人公ソートの人間的な成長  
 真のソート・ソート・ソートとは何か 小島 麻子  
 Anne Rice の The Vampire Chronicles  
 神・魔物についての研究
- 小島 亜沙美  
 Edgar Allan Poe "William Wilson" 研究  
 父親 Wilson の役割と作中のテーマ 近藤 宏美  
 Toni Morrison の Song of Solomon  
 について：黒人とソートの両方の喪失と  
 回復 後藤 幸子  
 Milkman 坂 阿弥子  
 North of Boston 研究  
 Robert Frost の描く様々な隣  
 The Happy Prince のモチーフについて  
 宗教と社会 坂元 陽子  
 Dubliners 研究 佐々木 麻由  
 「パロディ」とは何か  
 The Portrait of a Lady の研究  
 Isabel の変化と語末について 清水 怜子  
 James Baldwin, Giovanni's Room 研究  
 David の鏡について 庄島 千恵  
 隠された Wilde の性癖 真見 繁治  
 The Picture of Dorian Gray における新  
 つと取手  
 Toni Morrison Jazz の中心と流れる心

ジャズについて

末松 徳昭

Edgar Allan Poe "Assignment" 研究

Alice's Adventures in Wonderland の研究

高嶋 直子

研究

田畑 舞

"Stranger" のルビをめぐって

研究

高橋加奈子

ルビの心と現実社会

玉野 希

Tennessee Williams, "A Streetcar

Invisible Man" について

高橋 真介

The Bluest Eye 研究

愛の欠如がもたらした悲劇

Named Desire" 研究

Angela Carter and Gender Problems

高橋みどり

Robert Frost の "Birches" における

茅原絵里子

投書された彼の半生と主題

in Fairy Tales

高橋 美保

について

辻 寛之

F. Scott Fitzgerald 研究

The Power and the Glory

竹満 祥

Ernest Hemingway 研究

辻 寛之

"Winter Dreams" の構図と主題について

priest の殉教について

高橋 美保

Nick Adams を通して描かれる人間の

英語・日本語の比較と英語の規則

F. Scott Fitzgerald's Tender is the Night: The Visionary Dreams

竹満 祥

生れ方について

Kate Chopin の The Awakening 研究

"The Purloined Letter" の研究

田中 沙織

Emily Bronte, Wuthering Heights 研究

Edna の死の意味と希望

Poe が書く推理小説にみられる人間

田中 沙織

常川 真由

The Scarlet Letter 研究

Edgar Allan Poe, "The Fall of the House of Usher" 研究

田中 宏美

Nathanael West's Miss Lonelyhearts

ホーンズの罪の意識について

Madeline が生かぬがら埋葬された意

田中 宏美

J. D. Salinger, The Catcher in the Rye

条件文の持つ意味の認識

The Catcher In The Rye 研究

田中 悠紀

個人と社会

Toni Morrison の Sula における善悪

味

田中 悠紀

田頭 将樹

価値観について

ホルムズが求めた救済について

田端 美香

A Streetcar Named Desire の狂気や

Grice の言語の知覚と心理論について

Alice's Adventures in Wonderland

田端 美香

の変化について

高尾 竜一

研究

研究

外丸 梨絵

Edgar Allan Poe "The Black Cat" について

Edgar Allan Poe "The Fall of the House of Usher" 研究

田中 悠紀

研究

ホルムズと公の深層心理の考察

Alice's Adventures in Wonderland

田端 美香

研究

高尾 竜一

研究

研究

研究

高尾 竜一

研究

研究

研究

高尾 竜一

研究

研究

研究

高尾 竜一

研究

研究

研究

- 現象世界 富田 華代  
現象世界を拒絶し、自分の価値観を  
通じたの1冊
- The Adventures of Huckleberry Finn  
ハックをとりまく人々へ迷遊 堂前 篤史  
The Portrait of a Lady 研 中川 恵子  
Isabel の人間の成り立ち
- Toni Morrison, Paradise 12 邦訳 共同  
体の種類像 中嶋 信裕
- Ernest Hemingway, The Old Man  
and the Sea 研 中坊 亮太  
くじらとトーマスの人間観
- 依頼表現の1冊 中村 幸子  
～ 強迫観念の1冊～
- Relationships of Family in Marie-Claire  
Blais' Mad Shadows 長井 教子  
The Scarlet Letter 研 十海小夜子  
ホーンズの描く「人間の真実」
- Fiesta: The Sun Also Rises 12 邦訳 2  
Jake ヲ Brett の戦争の傷跡 ヲ克服 西川 舞  
Wuthering Heights 研 西村心々  
Heathcliff ヲ Catherine の愛
- Edgar Allan Poe 研 西岡 佳美  
"The Tell-Tale Heart" "The Black Cat"  
"The Imp of Perverseness" 恐怖小説の題材 ヲ  
表現方法
- Sylvia Plath の詩に時田わたるの  
そとへ死への想い 西本 昌枝
- Langston Hughes SELECTED POEMS  
OF LANGSTON HUGHES 研 野竹 陽一  
Hughes の詩の魅力を1冊
- シモン・ハム 橋田 佳枝  
シモンの批評 長谷川 顯子  
Emily Dickinson 研 長谷川 顯子  
Dickinson 12 ヲ12 冊 ヲ Dickinson  
が誰に込めたのか
- Agnes Grey 鑑 長谷川 顯子  
宗教・階級・財産と結婚
- A Study of Jeffrey Eugenides's The  
Virgin Suicides The Beauty  
of Death 長谷川 典充
- A Study of Jane Austen's Persuasion:  
A Reflection of Our World 濱川 雅子  
Graham Greene The End of the Affair  
研 早川 裕子
- Little Women 研究 林 華世  
10 冊
- Kate Chopin の The Awakening 12 邦訳 2  
主人公 Edna の死について 林 美里  
Dickens 「あつち」への「芸術」性  
Great Expectations 12 邦訳 Dickens の  
特異 人見 慎一
- Francis Scott Key Fitzgerald の  
The Great Gatsby 研 日野 綾美  
キャットムールの「失敗」の意味  
The Bluest Eye 研 平尾 厚子  
社会の環境を Pecola 12 邦訳 2 冊
- 代弁詞の意味と機能 広野 剛士  
Lewis Carroll, Alice's Adventures  
in Wonderland 研 藤田 有貴  
『不思議の国のアリス』の原動力 子  
ゆめ、ユ、想像
- Emily Dickinson の捉えた死について  
の想い 藤元 智美  
「死」への「不滅」まで
- Toni Morrison の The Bluest Eye 12  
16 邦訳 Pecola ヲ Claudia の価値観  
12 冊 藤原 史依

Henry James の The Portrait of a

Lady 研究 船阪佳奈子

無冠詞の田的性の用法における意味の

拡張 前田 智哉

進行形が可能な動詞と不可能な動詞の

条件について 松浦 育子

The Awakening 研究 松尾 尚美

「血闘」の行状記の結末

Sula 研究 松原 正人

Sula の Nel の描写について

Thomas Hardy Tess of the D'Urbervilles

について 眞野 絢子

井入公三と藤野野矢たかもの

Tess of the D'Urbervilles 研究

丸谷 美穂

Hardy の挿話とアンソニー

Their Eyes Were Watching God 研究

Jane の 義の 義について 光森 祐寿

The Picture of Dorian Gray 研究

人間と宿命と罪について 三平 陽子

Toni Morrison の Sula 宮藤 慶子

「魂」が果たす役割

Sula 研究 本光知香子

「I'll / I'll not / I'll be the Sula」存在の

意味と役割について

The Adventure of Tom Sawyer の研究

エド・ハック・サム・ソーネンバークの

「心の脱却」について 森岡 亮二

Edgar Allan Poe, "The Murders in

the Rue Morgue" 森田健太郎

トランプの分析能力について

The Mysterious Stranger の研究、及

つづきの小説の題名 Mark Twain の晩

年の思想について考察 藪 耕太郎

Henry David Thoreau, "Walking" 研究

山岸 豊子

E. M. Forster, Howards End 研究

山崎 大輔

George Eliot, Silas Marner: The

Weaver of Raveloe 研究 山田やまの

Silas Marner の人間性の回復について

わたしの Edgar Allan Poe, "The Murders in

the Rue Morgue" 研究 山ノ井愛子

Poe の Dupin の 謎推理

Howards End 研究 松本由子

Margaret の役割 山本 聡子

A Study of E. E. Cummings' "In Just"

吉賀 直子

Comprehension of Language by Using

Our Linguistic Competence 吉田 友香

和訳辞書づけと否定対極表現の関係

渡辺 康弘

日本語と英語の語彙認識範囲の違い

空詞と動詞の比較から考察

Daisy Miller 研究 渡邊 悠祐

Winterbourne の Daisy について

上田 敏久

Edgar Allan Poe "The Black Cat"

永井 麻弥

The Adventures of Huckleberry Finn

における 問題 矢崎 佳織

Walt Whitman, Leavers of Grass

〜"Song of Myself" における人間の尊厳に

ついて 鈴木 晶子

等位接続詞 and の特徴 石丸 明美

Kazuo Ishiguro, The Remains of the

Day における 晩年について

157

## Stevens の語いを軸に

今井 淑恵

現在完了進行形の意味範疇

小柳 栄一

The Possibility of Rebirth in Raymond

Carver's Cathedral 鈴木 愛作

主人公 Homer の人間性について

萩原 史保

Jane Austen, Pride and Prejudice 研究

四編の結晶について

細井 淳子

Dead Poets Society 研究

丸山 文子

Todd ヲ Neil を比較しながら考察する

"Seize the Day" の中心本邦の意味

Beatriz Potter 研究 伊藤 幸

～『ジャーナル・オブ』を読む～

予言の英語語彙の過剰について

浮田 陽子

Ellen Glasgow, Barren Ground 研究

19世紀アメリカ Glasgow と主人公

Dorinda の果たした役割を中心に

大塚 朱美

William Blake's The Marriage of

Heaven and Hell: Incarnating

Imagination 岡崎 忍

The Children's Hour における Mantha

の自殺と、その背景にあるもの

金城 静穂

Arturo Islas における オ・フノボの

伝承 辻 幸江

移民三世代のマインテンテナイの変

遷をめぐって

Song of Solomon における Milkman の

人間的成長と「飛び」の意味

中村みづ子

The Turn of the Screw における亡霊

の存在 道田 揚規

The Adventures of Augie March 研究

シリアル・キラーの Augie March

荒木 圭介

Hawthorne の抱く価値観

「罪と恥の罫」(The Unpardonable

Sin) からの読者取捨 Hawthorne の主張

英語と秋田弁の比較 石田 実奈

Salome の系図 吉岡 孝剛

Oscar Wilde の Salome を中心に

Thomas Hardy's view of woman in Tess

of the D'Urbervilles 香園 静江

## 史学科 日本史学専攻

一五八

近代日本の政教関係

相場俊太郎

中世末期の銭貨流通

阿部 航

稲荷社本願所愛染寺の社家の対立に

関して 阿部雄一郎

無縁所の特徴

池上 和夫

～戦国時代の寺院からの考察～

采女の変遷についての一考察

伊藤 純子

南北朝期の合戦形態

井上 聡

～個人戦から集団戦への移行～

北海道における新聞の発達

感神院犬神人について 上杉 順子

中世の弦売りを中心に 上田 知佳

沖縄貝塚時代の生業 上田 正晴

戦国期甲斐国・国人領主、小山田氏の

動向 植田 将之

武田氏との関連について

一九三〇年代における革新勢力 梅田 敦嗣

～社会大衆党を中心に～

明治期以降の出版界について 梅本裕紀子

～書店の様子を中心に～

戦国期城下町と領主権力の関係

中世後期の日朝間における自己、自他  
大川真由美

認識の形成と変遷  
大島 和幸

立憲政友会と産業立国主義  
大西 真司

戦後歴史学とナショナリズムの問題  
岡田 俊洋

織田信長政権における「天下」観念  
岡田 知子

メディアとスポーツと企業  
岡本 賢太

読売新聞社と読売巨人軍のプロ野球  
界でのあり方

近畿地方の人物壇輪  
小幡奈緒子

単位集団からみた集落構成  
梶村奈都子

近世、近代の「旅行サービス」について  
香月 毅

ての一考察  
香月 毅

講社の活動を通して  
金森 亮

全面講和論について  
金森 亮

光仁・桓武朝における天武系皇女  
糺島 祐子

齋王制度を中心に  
糺島 祐子

古代皇后論  
橘嘉智子を中心に  
川合 宏美

昭和戦前期の身の上相談  
川嶋 律子

『読売新聞』身の上相談欄と河崎なつ  
の思想

近代人物評論の成立と変遷  
川端 裕子

勝海舟評の背景への一考察  
木全 良典

縄文時代の水場遺構  
木村 友典

石橋湛山の思想  
木村 友典

平安時代の結婚秩序と色好み  
観念  
熊野 展子

南北朝期九州に於ける党派間流動  
倉持 寿敏

明治前期における京都番組小学校  
小坂 光広

石冠学史的にみた石冠の研究  
小島 裕介

近世後期の寄席・見世物興行に関する  
考察  
齋藤 圭介

尾張名古屋の事例をもとに  
大阪湾沿岸における弥生時代磨製石器  
の様式構造とその特質  
櫻井 拓馬

看板のデザインに関する考察  
江戸期を中心として  
佐々木道代

江戸時代のお歯黒  
澤田 芳

日本伝統音楽の近代  
柴山 礼子

稽古事としての筆曲を中心に  
明治二〇年代三〇年代の天理教  
布教状況及び内務省の取締り訓令に関して

近世吉原の遊女について  
太夫消滅の原因  
島村 正規

古墳時代における須恵器地方窯の成立  
菅原 雄一

内務官僚の政治的動向  
人事行政の自己完結化  
清家 剛

山林寺院である梵釈寺の考察  
関谷 友紀

茶道具茶笥についての歴史的考察  
染井絵里子

近世の曆について  
田内 友代

百鶴・古市古墳群周辺の集落遺跡  
高木久美子

実朝の將軍権力  
高谷 勇輝

錦絵の誕生と発展  
高橋 香苗

義満期における公武関係について  
高橋 英彦

弥生・古墳時代の農耕についての  
諸問題  
高橋 美沙

近世の武家屋敷について  
三都を中心に  
高本麻衣子

日本現代史における教科書問題論争  
瀧川 修平

- 日本赤十字社創設の意義 田中 亮子  
 明治議会と選挙制度改革 田中 伸孝  
 中世武士団の族的結合 田辺 記子  
 紀伊国湯浅党の党的結合を例に  
 古墳副葬品の配置 谷岡 道悦  
 室町期における医師の地位 中村 優里  
 大正期日本陸軍の動向についての  
 一考察 永井 敬久  
 中部地方における縄文時代晚期土器の  
 再検討 永井雄一郎  
 古代政治史における菅原道真の果たし  
 た役割 二木 元英  
 戦国期の土佐国における職人について 萩原由加里  
 『自然環境の悪化』と『自然観の変化』  
 中世前期土墳墓について 原 菜穂子  
 土偶の名称 馬場 郁恵  
 〓という物語 馬場真美子  
 土製模造品にみる古代人の祈り 藤城 理  
 室町幕府における同朋衆の職制に  
 ついて 藤田真智子  
 藤野 リカ  
 近世京都出土の土人形について
- 海獣葡萄鏡について 細川 智美  
 古代の北陸道 前田すみえ  
 近江湖東式軒瓦の定義とその分布 松井 由希  
 近世京都の町家 松浦 広明  
 中世小説と民衆 三浦ゆきか  
 中世武士と殺生罪業観 三谷 藍子  
 戦国期根来寺の泉南地方進出 宮下 健  
 ～『政基公族引付』の記事を中心として～  
 若者組について 三好 英樹  
 人形代について 村上 和広  
 村田 裕子  
 古代から近世にかけての変遷を中心  
 に 古代から近世にかけての変遷を中心  
 明治初期の日清外交 森本 敦子  
 柳原前光と日清修好条規交渉の関わりを中心  
 奇兵隊諸隊のリストラについて 矢次 昌之  
 中世におけるすり鉢の利用 八幡絵津子  
 近世画論にみる 琳派 山内 真理  
 江戸初期の「美術市場」についての  
 考察
- 絵画を中心に 山本真紗子  
 初期議会期の政治史に関する一考察  
 山縣有朋の「積極主義」と大権主義」  
 吉川 明洋  
 畑跡についての考察 吉田 隆史  
 東寺領・弓削島荘における一考察  
 渡邊 恭輔  
 近畿地方における方形周溝墓の埋葬  
 配列について 新山 和宏  
 年中行事をとあしてみた中世の村の  
 生活 田中 亨  
 古代日本における「天」観念について  
 の考察 中川 佳律  
 明治中期における外交官界についての  
 考察 服部 光浩  
 ～外務官僚期の原敬を中心に～  
 弥生時代における土器 銅鐸に描かれ  
 た建物絵画について 細川 彩  
 中世後期奈良における「住宅検団」に  
 ついて 辻本 志保  
 明治後期の立身出世 荒木 まみ  
 中等音楽教員を中心に  
 公娼制度からの賦金の行方 伊貝 仁子  
 「都をどり」の果たした役割



近世の都市寺院  
「芸術」の多用化  
構成主義を軸に  
石田ひろ子  
荻野 正人

縄文時代における装飾品の着用率

近世後期の武士教育  
高田ヤス子  
古賀 武

秋月藩校を事例として  
満鉄の終焉とその後  
元満鉄社員を中心にして  
立山 曠

渡来人の足跡を追う  
大壁建物を中心として  
浪江 志乃

埋葬姿勢からみた縄文墓制  
古代都城の煮炊具  
藤澤 珠織  
松島 真弓

その使用痕観察から  
災害考古学  
村上貴和美

災害痕跡からの視点  
日本の光学工業史  
森 亮寛

戦国武将の出拠進退を考察する  
尼子勝久と山中鹿作を中心として  
森江 利夫

鎌倉期における軍時と交通  
児童画にみる軍都  
八木 典子  
吉田ちづゑ

梅田学級の絵  
明治期におけるステンドグラスの導入

ステンドグラスからみる西洋文化と

日本文化の融合  
谷口 明代  
戦国期武家女性の役割  
内村 督支

毛利隆元室尾崎局を中心として  
明治前期におけるプロイセン化考  
谷 健

大阪府における遊郭設置反対運動に  
ついて  
佐々木能子

飛田遊郭設置問題を事例に  
軍都の台頭と軍令の制定について  
筆島功二郎

一遍の「捨てる」思想について  
超一らの別れを中心に  
山西真由美

日本人カナダ移民の生活  
宮嶋 剛志

近世日本のセクシュアリテイ  
久保田雄一

女性雑誌から見る女性の結婚に対する  
意識の変化  
坂口 晴代

丹波の生活雑器  
高倉 大

史学科 東洋史学専攻

南宋初期における兵制について

青磁の色の変遷  
池上 純之

文献を踏まえた一考察  
前漢代の貨幣について  
泉 悠

宋代の貿易  
馬援と扶風馬氏  
内田 盛也

民族政策と少数民族の生活の変化  
馬援と扶風馬氏  
大瀧 耕平

劉邦とその功臣達について  
文化大革命と庶民  
尾崎 敬

唐末五代の河朔三鎮について  
唐末五代の河朔三鎮について  
川原 宏教

19世紀初めにおける東南アジアの  
キリスト教学校  
木曾川直哉

前漢の丞相について  
九世紀東アジアにおける張保暉と  
城戸 知子

新羅商人  
現代中国における政治と観光  
上月 政弘

陳暉  
宋代庶民の経済生活  
小山 晃裕

酒井 陽香

収入と物価

漢民族の世界観 迫 裕介

中国の人口問題と一人っ子政策 澤淵 史恵

唐代の服飾について 三路 誠

緑茶と紅茶 立花 真歩

日本とイギリスの茶文化比較

日清戦争以後における中国留学生に  
ついて 田中 典彰

『大義覚迷録』について 樽野 泉

『顔氏家訓』小論 塚林 美沙

宋代貨幣考 辻井 寿世

金銀流通を中心に

中国古代山東地域における墓葬制度 坪井 大輔

法蘭の西域における族について 粟花落義隆

敦煌から于闐へ アンコール再考 手塚 悟子

アンコール期の信仰について

曹操政権の国家像について 富山 大門

曹操と荀彧との關係を中心に

金玉均と甲申政変 中田 祐子

唐代の仏教僧団と国家の一体化

国家による僧団の管轄・功德使につ

いて

宋代の葬儀について

中国革命と梅屋左吉

明代交通事情

南宋の財政政策

東南会子を中心として

李氏朝鮮における知識人について

林彪事件について

西晋政治史における一考察

張華を中心に

太平天国とイギリス

風箏に関する一考察

漢代における『孝経』の読まれ方

改革・開放以降の市場経済の発展に  
ついて

元朝フビライ政権下における漢人世侯  
とりわけ史天沢一族の役割について

の一考察

耶律楚材に関する一考察

則天武后の一考察

二・二八事件

二二八事件処理委員会を中心として

永富 千絵

西岡 恵子

樋口 剛志

福田 弘幸

藤澤 尚美

増田 克彦

松尾 祥司

松田 稔広

円山 順二

三嶋 康郎

溝口 智子

南田 有紀

三和 晋也

神保 充伯

谷口 香

狩野 紘一

近・現代における中国人の女性観

母性を中心に 古本 和江

食にみる中国の大衆生活 吉川 幸子

唐王朝と道教の關係 今津 健

日清戦争における開戦外交 岡 良祐

明・清と琉球との關係 尾曲 圭介

閩人三十六姓を中心とした久米村人  
について

茶館について 小出 匡毅

日本植民地下の台湾学生 岡嶋 嘉信

韓国合併後の李王家 石田 倫子

三峡プロジェクトとその諸問題

園田 智広

史学科 西洋史学専攻

脳死臓器移植にみるアメリカの文化的  
背景とその意味 石原 達也

都市ローマにおける穀物の供給と施与  
井邊 憲治

中世都市フイレントツエにおける慈善と  
兄弟団のかかわり 梅津 史子

ヨーロッパの装飾と身振り 浦 祐子

中世ルネッサンス

メデイチ家の覇権確立 大川 直子

コジモ・イル・ウェッキオの時代

中東・クルド民族について、周辺の中

東諸国が抱えるクルド問題と欧米諸

国の干渉 織部 美保

ファッションの自由 門田 理沙

二十世紀イギリスの外交政策

「帝国主義時代における大英帝国」 河村 千晶

都市エマルに内在する権力の二元性

紀元前一千世紀後半のシリア・パレスチ

イナにおける村落共同体に関する議論

優生学と社会福祉国家 黒田 哲也

文化を超えて 東泊 久美

遺伝子治療と優生学 斉藤 雅世

バイオテクノロジーの倫理をめぐっ

て ホメロスにおける比喩の世界について

の考察 佐藤ひかる

アメリカにおける児童虐待 重命 亜季

娯楽の中の政治性 進藤 幸喜

ナチ・プロバガンダと現代社会

ユダヤ人の迫害 杉村 幸洋

マケドニア台頭に見るテバイ覇権の

重要性に関する一考察 田中 建

第二次世界大戦下におけるアメリカ映

画 アメリカ人の対日観をよむ

ローマ帝国におけるキリスト教徒迫害

に関する一考察 田畑 裕行

キリスト教徒の性格とその実態から

テレビ・メッセージはいかにしてつく

られるか テレビとオーディエンス

の関係、その理論と効果 近田 修平

環境問題の解決にむけて 土居 郷子

→構造の分析と問題解決への糸口、

マケドニア朝ビザンツの強盛とその

要因 中野 修平

ギリシア暗黒時代の再構成 長田 潤

考古学とホメロスの両面から

アメリカ大衆文化の代表 ウォルト・

ディズニーの世界 成松 千草

「グリム童話集」の誕生 西川 美和

童話に隠された歴史的背景を読む

視覚受容の変化 野澤絵里子

テロリズムの歴史 樋口 瞳

教科書問題 ドイツ、日本 平野 克利

スター・ウォーズから70年代アメリカ

社会をみる 平野 智子

ポップスにおける黒人音楽史

福沢 栄樹

イギリスにおける動物への態度の転換

ヴィクトリア朝の変化に関して

藤井千恵子

都市と農村の相互作用 邊見真理子

ハプスブルク家の長期存続要因

15・16世紀のドイツ帝国国制の考察

増田栄利子

19世紀イギリスにおけるダンディズム

その発生と衰退 松隈 達也

現代教育の展望 松下健太郎

ルソーの教育思想に学ぶ

シンボルマークのメッセージ

国民国家の形成におけるシンボルマー

クの機能 水野 愛

多文化社会における表現の自由

『ちびくるサンボ』から考える 柳澤 和泉

結婚、生殖の場から安らぎの場へと移り

変わった家族の21世紀における役割

山口 生子  
ハワイの近代化における民族間の衝突  
と社会構造の変化

山本 麻矢

吉田 有希  
中世の異端カトリック派

デイオクレティアヌス帝による軍制  
改革について

吉野 友規

アレクサンドロスの東方遠征

脇坂久美子

男性優位と「男らしさ」の歴史

作られた「男らしさ」に至るまで

大滝 陽子

ガヴァネスから探るウィクトリア期の

英国女性 国原 優

NGO活動とその必要性 酒井 春美

自由から生まれる差別 大石 千晶

多文化主義の問題点と展望 喜納 久江

〜オーストラリア、ハンソン論争をもと  
に、

ユリウス・クラディウス朝における国内

統治と防衛の手法について

浜田 周平

過度の「母性」による代償

イタリアマンミズモ・ピーターパン症候

群から検証する男女のあり方とは

山中 淑江  
中世都市の起源・形成に関する一考察

川原 聖仁

オセアニア島嶼国の経済的自立

ツバルにみるレント収入依存型経済の

未采 末原 英幸

中世イベリア半島のユダヤ人

道下三由紀

中世イタリア商人の心性について

只野 義武

地理学科 地理学専攻

京都市におけるレンタルビデオ店の立

地展開とその商圏環境 浅田 正博

兵庫県氷上郡春日町の果樹栽培の様子

足立 さよ

兵庫県における観光農業と農園の分布

状況 足立 拓也

地域振興におけるリーダーシップの

役割 三重県阿山町を事例として

阿部 大輔

観光客の行動と観光地の発達過程

兵庫県出石町を事例として

飯田 大輔

都市における犯罪発生の時空間パ

ターン

井阪 幸子

京都市におけるハンバーガー店の立

地展開 石川 裕基

飯田 大輔  
都市における犯罪発生の時空間パ

ターン

井阪 幸子

京都市におけるハンバーガー店の立

地展開 石川 裕基

企業間にもみられる立地戦略の違い

神戸におけるアパレル産業の立地と

企業活動 石田 健治

滋賀県における居住地移動の特性

都市圏における通勤パターンの変化

京都府における性差に着目して

井手 光恵

大阪市における産業構造の地域的変化

井内田科子

大津市における宿泊施設の立地と展開

井上 千晴

大型小売店進出に伴う大都市周辺商店

街の変容 今中 大介

京都市伏見区 伏見桃山の商店街を例

として

京都市山科区における居住者属性の

変容 今西沙代香

京都市におけるファーストフード店の

立地展開

岩本 浩司

心齋橋筋商店街の構造変化

業種・業態・経営形態の視点から

植付真由美

大和川水系・佐保川流域における浸水

災害の要因 梅本 忠

露天商の出店行動

江原 光彦

～京都市及びその周辺地域を事例として～

都心部におけるファッションエリアの

拡大過程 大川内洋介

事例研究

京都市中京区御幸町通以西における

枚方市における緑地空間の質的变化と

居住環境 大田 恵未

福井県美浜町における民宿経営の地域

特性 大野 真一

高齢者における外出行動の空間特性

京都市北区大北山原谷乾町と長谷町

を事例にして

岡本紗代子

問題 ～浜松市を事例に～ 影山 文規

古墳に関する立地環境変化について

岐阜県可児市を事例として

加藤万由子

都心部における人口高齢化現象

京都市都心部を事例に

金野 夏子

スキー観光客の減少と新たな観光振興

湯沢町を例として 鎌倉 阿貴

大都市圏における都市化と交通が及ぼす影響

釜谷 将史

福岡大都市圏を例に

京都市中心部における放置自転車の

分布特性 亀本 雄太

京都市におけるフィットネスクラブの

立地展開 川崎 隆史

児童の外遊び行動と保護者の関係

平成ニュータウンを事例に 川野 敬

京都・鴨川の利用特性から見た「鴨

川」の個性 川野実由紀

京都市内における近隣型商店街の存続要因

北野商店街を例に 川畑 佑司

京都市右京区・上京区・中京区にお

けるコンビニエンス・ストアの立地

適応 黒木 誠

大都市における地下街の発展

大阪「なんばウォーク」を例にして

立地からみたコンビニエンスストアの

企業特性 小林 暁

京都市を事例に

天神川下流・北条平野における地形

環境 小林奈央子

京都市におけるファーストフード店の

立地展開 後藤 佑子

群馬県における商業地システムの変容

買物動向調査を用いた考察

澤田 直也

地域に根ざしたまちづくりについて

塩原 朝子

衛星都市の変容

枚方市を事例として 敷地由美子

大都市近郊の駅周辺地域における土地

利用の推移 白藤 俊

京阪伏見桃山駅周辺を例に

高齡化地域における農業経営と営農意

識 岡山県備中町長谷地区を事例として

角田正樹

城下町高田の都市構造とその変容に

ついて 関 聡美

大都市圏郊外の宅地開発地域における

生活行動圏 園山 啓太

～愛知県三好町を例として～

京都府宇治市の観光地と観光客の属性

高木 勝

サッカーにおける外国人選手の移動

及びその特性 高橋 健

JリーグとセリエAを例として

淀川水系・石田川河口部周辺における

湖岸侵食の要因 高橋 直樹

京都市における犯罪発生の傾向

多賀谷 洋

香川県丸亀における城下町時代から

近代都市への変遷 谷口 有人

京都市内におけるサブカルチャー施設

の立地展開 田村 寛明

摂津職刃部猪名所地図の地理学的研究

図像表現の分析による開発過程と作

成契機の考察 塚本 章宏

空港が周辺地域に及ぼす影響

関西国際空港と大阪国際空港を事例

に 坪田美奈子

地域振興における考察 富田 幸司

奈良県大和郡山市を事例に

最終氷期における、岡山県の主要三河

川の古水系の考察 留安まどか

商用インターネット回線からみた日本

の機能地域構造 中川 聖悠

大阪地下街における地理学的考察

中川 晋輔

通勤流動からみた中京大都市圏の結節

体系とその変化 中川 祐良

沖繩本島・知念台地の斜面地形

中村 有作

木津川下流域における土地利用と災害

危険度評価 並木 智子

消防署の適正立地について 新関 尚賢

～滋賀県湖南地域を対象として～

京都市北部における御土居構築地の

時間的変遷 西島かおり

御土居破壊と市街地化について

伝統的町並みを生かしたまちづくりと

地元住民のまなざし 西林 小波

内子町・八日市護国地区の町並み保

存

滋賀県におけるスーパードの立地展開

灰谷 明子

コミュニティバスが実現する地域住民

のアクティビティ 幡野 剛史

～奈良県斑鳩町を例として～

大阪市における土地利用分析とその

変化モデルの構築 花岡 和聖

京福電鉄利用者の移動パターン

広上 隆之

住宅団地住民の生活環境評価のミクロ

分析 廣田 修

桑名市西部丘陵地を事例として

ガソリン価格の変動と波及 藤本 秀樹

都市近郊混住自治会の総合的分析

大和郡山市北西町自治会を事例 北條 勝亮

山岳宗教における信仰圏の一考察

～京都・鞍馬寺を事例として～ 細川絵理子

那上八幡城下町の景観と保存の現状

堀 敦哉

住民の意識と地域振興の関わり

京都市伏見桃山地区を事例として

本田 絢子

京都市における人口高齢化の空間的

展開 水野 文仁

京都市における居住者特性の変化

水野 文仁

京都市における居住者特性の変化

地域の特性と高層建築物に注目して

三輪 暁子

地域づくりにおける三二独立国の役割

奈良県下北山村ツツノコ共和国の場合

村瀬 裕幸

姫路市における大規模小売店郊外化に

伴う中心商店街の構造変化

森田 真令

京都市における都心部の土地利用と

立体的機能分化

矢吹 慎

地域開発と中心商店街における地理学的

考察

藪下 純美

柳町商店街を例にして

高齢者の空間認知についての地理学的

研究

山口 敦司

三重県津市西郊地区を事例に

山村地域における県境の障壁性

山盛 洋介

都市の盛り場における「たまり場」の

役割とその意義

余語 亮

大阪アメリカ村「三角公園」を事例

として

世界文化遺産に指定された観光地と

観光客の属性

吉本 夏子

栃木県日光市を事例として

大和川流域における水害危険度と住民

の災害意識との関連

九州北部・遠賀川流域における縄文

時代の海岸線変化

京都府における林業新規就労者の現状

とその対応

美山町森林組合を事例として

佐賀県における部位別がん罹患の地理

学的分析

坂井 利裕

琵琶湖・沖島における石材業の展開

昭和初期 沖島石材販賣組合・西居

石材店の記録をもとに

山野 祥子

韓国・ソウル近郊における「新都市」

開発

正木 泰

岐路に立つ商店街

熊本市子飼商店街を例として

片山 裕子

高齢化に対応した福祉のまちづくりに

ついて

佐野 和明

新潟県西蒲原郡吉田町を事例として

大学生の通学路・市街地におけるメンタ

ルマップの分析と水環境についての

一考察 愛知県犬山市を事例として

三戸 啓子

近畿地方における家電量販店の空間的

展開

神田 洋

京阪神大都市圏における衣料小売り業

の動向

比良 俊也

関与概念による購買場所選択行動の説明

広島県呉市瀬戸見町を事例として

荒津田 平

農業経営にみる干拓地農業の若干の考察

岡山県児島湾七区干拓地を例に

上木 宣人

宿泊施設の立地と推移

観光地「嵐山」における商業施設について

嵐山商店街を例にして

久保健太郎

テレビドラマにおける場所イメージ

「トレンディ・ドラマを事例として」

小林 正和

衛星都市における急激な土地利用の変

化とその特性について

小林 祐二

滋賀県草津市を事例に

京都市におけるコンビニエンスストア

廃業店の分布特性

テーマパークの立地展開とその周辺に

おける影響

中村 光辰

～京都市の観光と関連させて～

広域行政のあり方とさいたま市におけ

る合併後の影響について 野田 健介

京都市伏見区におけるコンビニエンス

ストアの立地分析 濱上 宏基

大都市近郊農村の変容 平井 和典

兵庫県猪名川町における椎茸栽培を

事例に

北マリアナの産業構造と外国人労働者

造 アメリカ自治領が生み出した産業構 廣明 健夫

和歌山県における観光地と道路整備

～道路ネットワークからみた近接性にお

ける考察～ 福本 雄志

カナダ バンクーバー市、フォールス

クリーク南岸における再開発 仲野 照子

～市策とその乖離～

駅前における自転車駐輪問題と都市形

態としての路上駐輪 井澤 直弘

例として 尼崎市・阪急武庫之荘駅北口前を事

大都市周縁部山村に対して都市が与え

る影響 内橋 隆二

大阪府高槻市榎田地区の事例

京都府における戦後開拓地域の変容

原谷地区を例に 小田 知宏

農地転用からみた草津市における土地

利用変化 竹田 誠

人文総合科学インスティテュート

(人間と情報)

メディアと対人コミュニケーション

阿部 倫子

気分誘導法の質的差異の検討

井本 尚人

日本社会における児童虐待問題の背景

上野 哲司

平成期、VSシリーズにおけるゴジラの

特徴について 神谷 陽平

職業カテゴリーとパーソナリティ特性

が顔の認知に及ぼす影響 川村 理恵

電子掲示板の発言の印象に与える顔文

字の効果について 北野なおみ

認知的不協和における個人差について

反態度的行動後の態度変容 神足 智子

社会的比較によって生じる感情

鈴木 絵梨

シウルレアリズム運動に底流する自然

帰帰への欲求とその可能性 田口 洋

音楽が映像に及ぼす影響 田辺恵理子

大きさ認知における色彩の効果…日常

場面について 田淵 彩子

注意による運動残効抑制効果の検討

為実 友子

女性の化粧への関心度と自尊心との

関係 千葉 奈美

運動残効に対する注意と参照枠の効果

中尾 志織

文字の高速継時呈示事態における注意

の効果 中野 綾子

『2001年宇宙の旅』の世界

浜口 勉

現実場面における大きさ認知に及ぼす

色の効果 正信 美奈

人物の印象評定における閾下単純接触

効果 森下 賢一

運動刺激消失点の判断における知覚

判断と運動反応 吉田記子

対人印象形成における認知フレームの



検討

吉野 宗一

エレベーターの開閉ボタンのわかりやすさ

高原 宏恵

色彩選択法によるメモディーと詞の関係についての分析

萩原久美子

感情が認知過程に及ぼす影響

西脇 壮至

性格特性語による印象判断の階層性

好悪性と熟知性の影響

岩浪 宏明

概念の先行呈示がユーザにあたえる影響

川原 雅好

メモディーによる記憶促進効果の検証

堀 征巳  
木戸 浩貴

家族の成立について

霊長類研究から

人文総合科学インスティテュート

(言語と文化)

社会と人格形成

安部 麻美

マネと社会の関わりについて

『マネ作』オランピア』が社会に唱えた

『違和』 池谷 幸

ターナーと印象派が描く風景画

上坊 仁子

魔女狩りと産婆

岡本あずみ

30年前の学生運動

なぜ全共闘運動は盛り上がったのか

性同一性障害

THE BEATLES

第二言語習得

人魚伝説 古代から現代まで

『千と千尋の神隠し』にみる超ロングランヒットのわけ

中国系アメリカ人の諸相

『The Joy Luck Club』を通して

生活空間のデザインと人間行動について

ニバーサルデザインへの歩み

デカメロンからみるルネサンス

子どもの遊び文化の移り変わり

日本と韓国の比較文化

『漂泊の旅』についての民俗学的考察

山口 怜子

『フォレスト・ガンプ』に見るウェット

ナム戦争とアメリカ社会

ウェトナム戦争再評価の流れ

イタリアにおけるクリエンテリズム

第二次世界大戦後からタンジエント

ポリ体制の露呈までを追って1945

1992

アイランド伝統音楽の変容

20世紀を中心に

スポーツとメディア

現代スポーツ甲子團

人文総合科学インスティテュート

(人間と表現)

演劇になる

自作『デリカライフ』改作の試み

マリリン・モンロー

『ねじ式』について

レオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晩餐」について

写真の白痴へ

「殉教者」中平卓馬によりながら

伊藤かおり

小坪 治代

芝原 一起

辰巳 知子

中村 真弓

- バルテュスの絵画 長原 彩子  
 謎の絵師 ノエル・ヌエット  
 『東京風景』を紐解く  
 レイヴンRAVE 松崎 聖子  
 松田 和  
 非革命による解放  
 法王の叫び 村田 裕美  
 ベイコン絵画の強度と美  
 プロレスの技の幻想 涌井 慎  
 芸術の「享受」 浦田 恭代  
 ボードレール美術批評にみる公衆の誕生  
 「日本絵画『プリミティブ』という幻想」  
 遠近法からのアプローチ 瀬尾健太郎  
 意味と記号のファンタジー  
 宮崎アニメーションの批評的実践  
 三鍋 岳大  
 ルドルフ二世と「驚異の部屋」 伊谷 紘司  
 現代中国の農村とその社会 高森 民江  
 マスメディアの普及と人間性  
 ラスベガスについて 白井 健  
 ダダイズム再考 岡本 卓也
- マルセル・デュシャンのレディ・メイドを通して  
 ダリ 周藤 隆之  
 個性とイズムの結びつきに見る最良期の考察  
 Mark Rothko 静かなる劇場  
 清野 由貴  
 千葉 敦夫  
 観光と文化の関係の考察  
 パリ島の事例を中心に  
 人文総合科学インスティテュート (アジアと現代)  
 北米に生きる中国人 影山 朋子  
 アイデンティティをめぐる葛藤  
 中国における多民族国家社会に関する考察  
 片山 直紀  
 老子英雄児好漢、老子反動児混蛋  
 神戸はるか  
 文化大革命における「血統論」  
 香港における産業化に伴う時間感覚の変化  
 杉谷 陽子  
 近代日本の植民地統治における「衛生」  
 台湾を事例として 広瀬 有紀
- フィリピン死刑制度の諸相 三品 愛  
 探偵小説と時代、読者 水野 智裕  
 『新青年』の周辺  
 戦争と文学 石川達三「生きている兵隊」と火野葦平「妻と兵隊」の比較研究  
 三宅 桃子  
 文革・解放軍・身体 現代中国における英雄の表象  
 森本 早保  
 中国社会における結婚観 吉田久美子  
 「包二奶」問題をめぐって  
 村田 梨香  
 和田 朋子  
 高年齢者の雇用について  
 香港系中国人の新移民  
 人文総合科学インスティテュート (文化と社会)  
 ドストエフスキー『罪と罰』における「凡人・非凡人論」 飯田佳奈江  
 日本の安全保障と沖縄米軍基地問題  
 迷走する安保の庭「沖縄」  
 石井亜矢子  
 旅行記に見る英国階級制社会の人物像について  
 大下智津子  
 クジラをめぐる論争 岡井 喜美

熱帯雨林の文化と伐採

笠松 恭子

パプアニューギニアの森について

古代マヤ文明の再考

門田ゆかり

古典期マヤ文明の衰退をさぐる

開発における外部者

常楽 悟

女性と家族

高野 華永

役割意識と政策のすれ

霊長類研究から人間研究へ

山崎 誠士

現代妖怪論

武田 英

ヘンリー・ダーガーと彼の求めたもう

ひとつの現実について

菊池 史

レヴィ・ストロースの1950年代を

どのように評価するか？

泉 克典

「ヤポネシア」再考

水取 勲

琉球弧を視座として

山岡鉄舟にみる禪の思想

中村 昇平

剣・書との関わりについて

ナポリとブルチネツラの関係性に

ついて

益子 暁

マーティン・スコセツシ論

山田 哲裕

芸術への不信感をパフォーマンスト

インスタレーションの間に探る

加藤 久哉

フランツ・カフカ『変身』研究

新たな存在を求めて

辻 幹

観光名所考

龍安寺はなぜ有名か

森永 和久

立命館大学文学部夜間主コース卒業レポート題目

ハンナ・アーレントにおける私的領域  
と公共領域  
久道 由美

『人間の条件』を中心に  
愛と自由意志の探求  
吉川美恵子

アウグスティヌスより  
地環境と人の欲  
千原 淳志

メルロ＝ポンティの身体観と臨床に  
おける主客の統合  
石浦 昭美

永遠回帰について  
ユング「個性化の過程」  
伊藤 直伸

失語症からみる言語の現象  
語は何かを失ったのか  
岡本 崇裕

イギリス経験論の立場からの自己中心  
性の考察  
山口美穂子  
山本 治男

日本文学コース

京都中央市場の系譜  
奥田 由美

市境の境界性をめぐって  
戒壇の機能  
木原 慶仁

近世と現代  
竹取物語  
斉藤 智由

天女がくや姫と翁  
大将軍八神社を中心に天神川とその

周辺  
堀内美津帆

哲学思想コース

環境倫理  
石橋久美子

動物の権利について  
ブルノ・シュルツ『肉桂色の店』の  
哲学的解釈  
佐野久美子

ニーチェ哲学を手がかりに  
哲学することは個人的限界を打破でき  
るかについて  
塩津 實昭

自己とは何かという側面から  
ニーチェのパスpekティズムと世界  
認識  
新田奈々子

『知覚の客観性についての現象学的解釈』